

F★★★★ 日本建築仕上材工業会登録 登録番号 0812034／国土交通大臣認定防火材料 認定番号 NM-4253(不燃材料)

リバーコート（ハーフセット）取扱説明書

このたびはご購入いただき誠にありがとうございます。
お使いになる前に本説明書をお読みください。

〔セット内容〕

- ① リバーコート専用混合液 1 個 (8kg)
- ② リバーコート専用珪藻土 1 袋 (3.7kg)

※ ①と②を全て混ぜ合わせて使用します。



〔用途〕 内装仕上げ、内装下地

〔塗布量〕 1 セットで約 40m²（ローラー1 回塗りの場合）

〔使用期限〕 未開封の状態で 1 年以内 ※開封後は 2～3 日以内に使い切ってください。

1.お客様に別途ご用意いただくもの

35ℓ 程度の容器、マゼラー等の攪拌器具、ローラーまたはスプレーガン（ローラー・吹付の場合）

2.取扱い上の注意

- ・ 高温多湿な場所、直射日光の当たる場所に置かないでください
- ・ 炎天下の車内等、40℃以上の高温になる場所に保管、放置しないでください。
- ・ 5℃以下になる場所に保管、放置しないでください。
一度凍結したシーラーは接着力が極端に低下します。
- ・ 必要に応じて保護する手袋やメガネ、マスク等を着用してください。
- ・ 皮膚に付着した場合はすぐに洗い流してください。
- ・ 目に入った場合は直ちに洗眼し医師の診断を受けてください。
- ・ 飲み込んだ場合は直ちに水で口内をよく洗浄し医師の診断を受けてください。
- ・ リバーコートは乾くと落ちなくなるため、施工前に必ず養生を行ってください。
衣服や床等に付着した場合はすぐに水洗いするか拭き取ってください。

3.塗布回数目安

仕上げとして用いる場合は 2 回塗り以上 ※40m²を仕上げで塗る場合、本品は 2 セット必要です。

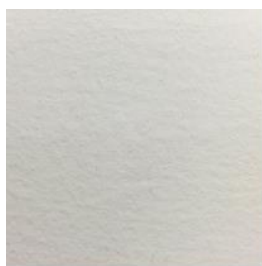
〔防火材料認定（不燃材料）の仕様について〕

塗り厚 0.3 (±0.1) mm／基材※（不燃材料（金属板を除く）） ※石膏ボード

防火材料認定（不燃材料）仕様にする場合は塗り厚 0.3mm (±0.1mm) に塗布してください。

ローラー塗布の場合、目安は 2 回塗りですが、塗装対象の形状、状態等により異なります。

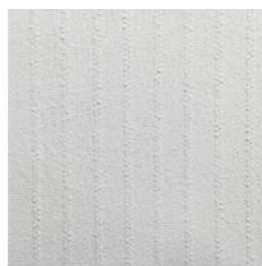
4. 塗装用下地クロスを張ってから塗布することでパターン付けも可能です



通常の仕上がり



パターン例1



パターン例2



パターン例3

5. 作業中はこまめに攪拌し、珪藻土が沈殿しないようにしてください

- リバーコートは液体と珪藻土との混合物ですので、比重の違いにより珪藻土の方が早く沈殿します。攪拌を怠ると珪藻土が沈殿して液体だけを塗布することになってしまい、リバーコートの効果が十分に発揮されません。
- 攪拌が不足することでシーラーが沈殿して塗布量が不足するため接着力が低下します。リバーコートを塗った壁面がポロポロと剥がれるなど接着不良を引き起こす原因にもなりますので、攪拌は十分に行ってください。
- バケツなど別容器に小分けする際にも必ずよく攪拌してから移してください。作業中はローラーでバケツの底の方からかき回すように攪拌してください

6. 塗布後は風通しを良くして乾燥させてください

熱による急激な乾燥は、塗布表面と内部の乾燥速度に差が生じてひび割れの原因になります。

7. 重ね塗りする際は先に塗ったリバーコートが乾いてから塗ってください

- **乾燥時間：3時間以上**
気温等の条件によって異なります。完全に乾燥したのを確認してから重ね塗りしてください。
乾かない状態で重ね塗りすると剥がれてくる場合があります。
- 塗布時に下地が見えていても、乾燥するにつれて白くなります。
下地が見えているからといって一度に塗り重ねすぎると乾燥後に凹凸が目立ってしまいます。
- 重ね塗りする際は1回あたりの塗布を薄塗りにするときれいに仕上がります。

8.施工の前に（作り方）



①リバーコート専用混合液」をよく揉み込み混ぜ合わせてください。糊の成分が沈殿していますので、手でよく揉んで混ぜ合わせます。



②用意した容器にリバーコート専用混合液を入れます。



③マゼラーで一度攪拌します。



④攪拌しながら「リバーコート専用珪藻土」を5回程度に分けて入れます。攪拌しながら分けて入れることで、珪藻土の沈殿が軽減され、なめらかさが出て施工性が向上します。



⑤再度よく攪拌してください（3分程度）。

9-1.施工手順（リバーコート仕上げ）

▼下地処理

- ① 塗装面が汚れている場合はきれいにしてください。
- ② 壁面よりも飛び出たビス頭などはしっかり打ちこんでおきます。
- ③ 石膏ボードの継ぎ目にメッシュテープを貼ります。
※施工後の目地部のひび割れ防止効果があります。塗装用下地クロスを使用する場合は不要。
- ④ ボードのつなぎ目、ビス頭などの凹凸や段差をパテで埋めます。
お施主様が化学物質に敏感な方の場合、パテ塗りの水には「工事用リバーコート溶液」と「セラミック水」を1：3の比率で混ぜた水を推奨します。
- ⑤ パテ乾燥後、紙ヤスリで平滑な面を作ります。
段差が残っている場合は平滑な面が出来るまでパテ塗り→ヤスリ掛けを繰り返してください。
- ⑥ パテ処理部分にリバーコートシーラーを塗り、よく乾燥させてください。
ハイクリンボードなど濃い色の下地に塗布する場合、シーラーは白色のものを使用するときれいに仕上がります。
- ⑦ （塗装用下地クロスを張る場合）パテの粉をよく落とし、塗装用下地クロスを張ります。
お施主様が化学物質に敏感な方の場合、施工マニュアル「4.クロス仕上げ（P.20）」のクロス糊で張ると効果的です。

▼ローラーで塗布する場合

ローラー径 6cm 程度（レギュラーローラー、中毛）または 3cm 程度（スモールローラー、短毛または中毛）のウールローラーをご使用ください。

3cm 程度（スモールローラー、短毛または中毛）のローラーを使うとより一層きれいに塗れますので、仕上げの場合などはこちらがおすすめです。

**<気泡が入らないようにするのが、きれいに仕上げるためのコツです>**

- 専用混合液と珪藻土を混ぜる際に攪拌機を使用しますが、攪拌後は気泡が混ざりやすいです。
- 気泡が含まれたまま塗りつけるときれいな仕上がりを妨げますので、攪拌後バケツ等に移した際、静置して気泡が消えるのを待ってください。
- 気泡が消えた後、ローラーでバケツ内の底の方からかき回すようによく攪拌し、作業を開始してください。作業中も同様にこまめに攪拌してください。

<手順>

- ① 入隅や窓周りなど、ローラーで塗れない箇所は先に刷毛で塗ってください。
- ② ウールローラーを使用して、下地が見えなくなるまで複数回塗布します。
気泡を追出すように、縦横十字に塗ってください。
- ③ 塗装用下地クロスを使う場合は種類に応じて塗布回数を調整してください。目安 2～3 回程度。



①



②



③

▼吹き付けで施工する場合

- ① 専用混合液と珪藻土を攪拌した後、濾し器で一度リバーコートを濾してからスプレーガンに入れてください。
溶けきれなかったリバーコートがノズルに詰まるのを防止するためです。
- ② スプレーガンを使用して、下地が見えなくなるまで複数回（2～3 回程度）塗布します。
吹き付け前に一度ローラー塗りをすると定着しやすくなります。
- ③ スプレーガンは、作業性の良さ・メンテナンスの容易さの観点から重力式が適しています。※
※ご自身が使いやすい物があればご使用いただいて構いません。



①



②



③

9-2. 施工手順（壁・天井、床など下地に塗る場合）

▼クロス施工前の石膏ボードや床材施工前の合板にウールローラーで塗布します

ローラー径 6cm 程度（レギュラーローラー、中毛）または 3cm 程度（スモールローラー、短毛または中毛）のローラーをご使用ください。

3cm 程度（スモールローラー、短毛または中毛）のローラーの方がより一層きれいに塗れますので、仕上げの場合などはこちらがおすすめです。



▼床下地合板に塗布した後はブルーシート等で必ず養生してください

塗布後、養生しないまま次工程の木工作業や石膏ボード施工を行うと、作業で発生した粉塵がリバースコート塗布面に付着することで床材の施工時に接着不良を引き起こす場合があります。

また、床材施工前には掃除機を使って十分に掃除を行ってください。

▼施工手順（石膏ボード張り付け後に塗布する場合）

① パテ処理をします。

お施主様が化学物質に敏感な方の場合、パテ塗りの水には「工事用リバース溶液」と「セラミック水」を 1：3 の比率で混ぜた水を推奨します。

② パテ処理部にリバースシーラーを塗布した後、薄塗りで複数回塗布してください。

③ 入隅や窓周りなど、ローラーが届かない箇所は先に刷毛で塗ってください。



①



②



③

▼施工手順（張り付け前・現場搬入前に塗布する場合）

① 広い作業スペースが確保できる場合は事前に塗布してから現場搬入すると効率的です。

② スペースが無い・限られる場合でも、6～8 畳程度あれば現場での塗布作業が可能です。

③ 塗布後は、ボード間にコマを入れて立て掛け、側面から扇風機で弱い風をあてると早く乾燥させることができます。強い風を急に当てるとひび割れの原因になります。

④ ムラができないよう一定方向に塗布します。ボードを寝かせて塗ると作業性が良いです。



①



②



③



④

※ 張り付け後、パテ処理をした部分などは上記「石膏ボード張り付け後に塗布する場合」同様に施工してください。

▼施工手順（床材の下地合板への塗布）

- ① フローリング等床材張り付け前の合板に塗布します。つぎ柄を付けると楽な姿勢で塗れます。素材によって塗布面積が多少異なります。
針葉樹合板の場合は吸い込みが大きいので塗れる面積が少なくなり、耐水合板の場合は塗布面積が増える傾向があります。
- ② ムラができないよう、一定の方向に向けて塗布してください。
- ③ 断面からも有害化学物質が発散しますので、刷毛等を使って塗るといっそう効果的です。



①



②



③

▼リバースコート塗布後にクロスを張る際のポイント

- ① リバースコート塗布により吸い込みが良くなるため、クロス糊は**基準量よりも約 20%程度多く塗布**してください。※和紙などクロスの種類によっては更に塗布量を増やす必要がある場合もあります。
- ② 塗布後不陸調整が必要な場合は削った部分をきれいに掃除しリバースシーラーを塗布します。
※上記作業を行わずにクロスを張ると剥離の原因となりますので、必ず行ってください。